

2026年6月26日

[配信枚数2枚]

発信元 滋賀大学総務課企画・広報室

報道関係者 各位

「生成 AI プロジェクト 2026 春」成果発表会開催 学生が学内課題の解決アプリ制作に挑戦

滋賀大学では、春学期のプロジェクト科目として「生成 AI プロジェクト 2026 春『学内の課題解決アプリ制作に挑戦』」を実施しています。本授業は、大学内の組織が抱える課題をテーマに、生成 AI や AI コーディングツールを活用しながら、学生が課題解決のためのアプリ制作に取り組む対面演習です。

このたび、最終回となる 2026 年 7 月 1 日（水）に、学生 5 名および教員 1 名による計 6 件の開発成果発表会を開催します。大学生協と学生団体の意思疎通、留学情報の提供、就職支援、図書貸し出し・管理、大学内カフェの在庫管理、インターンシップ期間中の学生支援など、学生生活や大学運営に身近な課題をテーマに制作した Web アプリについて、課題設定の背景、機能、制作過程、今後の活用可能性を発表します。

つきましては、下記のとおり成果発表会を開催いたしますので、取材のほど、どうぞよろしくお願いたします。

【成果発表会】

日 時：2026 年 7 月 1 日（水）14 時 30 分～16 時（第 4 限授業時間）

会 場：滋賀大学 彦根キャンパス校舎棟 2 階 第 7 講義室（彦根市馬場 1 丁目 1-1）

内 容：学生 5 名および教員 1 名による計 6 件のアプリ開発成果発表

担当教員：産学公連携推進機構 地域連携教育推進センター長 柴田 雅美

データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター 特任講師 ポール・リー

対 象：経済学部・データサイエンス学部の学生

[背景]

生成 AI の急速な普及により、専門的なプログラミング経験が十分でない学生であっても、AI を活用しながら課題の整理、画面設計、試作、改善を行い、実際に動作するプロダクト制作に取り組むことが可能になりつつあります。

滋賀大学では、こうした AI 時代の実践型教育の一環として、春学期に全 8 回の「生成 AI プロジェクト 2026 春『学内の課題解決アプリ制作に挑戦』」を実施しています。本授業では、受講生が各自のノートパソコンを用い、AI コーディングツール「Lovable」を活用しながら、一人につき一つのオリジナルアプリ制作に取り組んでいます。

[概要]

本成果発表会では、学生 5 名および教員 1 名が、大学内の課題解決を目的に制作した計 6 件のアプリを発表します。発表予定のテーマは以下のとおりです。(発表順は未定)

1. 大学生協と学生団体との意思疎通を円滑にするアプリ
2. 留学に関する情報提供を行うアプリ
3. 就職支援に役立てるアプリ
4. 図書の貸し出しや図書の管理に役立てるアプリ
5. 大学内カフェの在庫管理を行いやすくするアプリ
6. インターンシップ期間中の学生の伴走を行う対話型アプリ

当日は、学生が大学内の課題をどのように発見し、アプリの形に落とし込んだのか、生成 AI を使った具体的な進め方、制作した Web アプリの実演などをご覧ください。

また、学生自身が制作を通じて得た学びや、苦勞した点、今後の改善案についても発表します。生成 AI を単なる情報検索や文章作成の道具としてではなく、課題解決のための実践的な制作ツールとして活用する教育の成果をご確認いただける機会です。

●本件に関するお問い合わせ先

滋賀大学 地域連携教育推進センター 担当：大岩

TEL：0749-27-1141 E-mail：soc-coop@biwako.shiga-u.ac.jp